

秋の深まりとともに、保健室に来る児童の理由に「腹痛」が増えてきました。がまんできずに学校でおう吐やげりをして、つらい思いをした子もいます。感染性の胃腸炎での欠席もみられました。いよいよウイルス性の胃腸炎やインフルエンザの予防が必要な時期です。

11月の委員会で、「かぜ・インフルエンザ予防」を呼びかけるポスターを作りました。すぐに「手洗い・うがい」の言葉がでてきました。予防に大事だと皆わかっているようです。

保健委員は休み時間に手洗い場のせっけんを補充しています。結構早くなくなっていることから、おおぜいの方がせっけんを使って手を洗っていることもわかっています。

が、その後、ハンカチで手を拭いているのでしょうか？

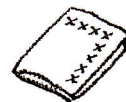
保健委員に聞いてみたところ、ハンカチを持っていた人は半分以下。「服でふいている。」「自然乾燥。」と、正直な答えがかえってきました。

そこで、自分のクラスで何人がハンカチを持っているのか調べてくるように伝えました。その結果、ハンカチを持っていたのは5年生は3分の2、6年生は約半数でした。学年が上がるのと持たなくなるのでしょうか？

これからは「手洗い・うがい」に加えて、「ハンカチ」も呼びかけていくことにしました。

毎日清潔なハンカチを持つ習慣を身に付けてほしいと思います。

ぜひおうちの方のお声かけと洗濯をよろしく願いいたします。



## 感染性胃腸炎について

### 1 感染性胃腸炎とは

感染性胃腸炎とは、主にウイルスなどの微生物を原因とする胃腸炎の総称です。原因となるウイルスには、「ノロウイルス」「ロタウイルス」「サポウイルス」「アデノウイルス」などがあり、主な症状は腹痛・下痢・嘔吐・発熱です。これらの胃腸炎は、症状のある期間が比較的短く、またウイルスの種類によって異なる治療が行われることも通常ないため、ウイルス検査を行うことなく、流行状況や症状から「感染性胃腸炎」として診断されることがあります。

### 2 原因と感染経路

ノロウイルスによる感染性胃腸炎は、人から人へと感染する場合と、汚染した食品を介しておこる食中毒に分けられ、次のような感染経路があります。

- ・感染した人の便や吐物に触れた手指を介して、ノロウイルスが口に入った場合
- ・ノロウイルスを内臓に取り込んだカキやシジミなどの二枚貝を、生でまたは不十分な加熱処理で食べた場合
- ・感染した人が十分に手を洗わずに調理した食品を食べた場合
- ・感染した人の吐物やふん便が乾燥して、細かなちりと舞い上がり、そのちりと一緒にウイルスを取り込んだ（吸い込んだ）場合

### 3 感染予防のポイント

- ①一人一人が手洗いをきちんと行うことが大切です。特に排便後、調理や食事の前には、その都度、石けんと流水で十分に手を洗いましょう。
- ②カキなどの二枚貝を調理するときは、中心部まで十分に加熱しましょう。
- ③吐物やふん便は、次亜塩素酸ナトリウム（塩素系の漂白剤）を使用し、適切に処理しましょう。
- ④吐物やふん便を処理する際は、使い捨ての手袋、マスク、エプロンを着用し、処理後は、石けんと流水で十分に手を洗いましょう。

### 4 感染性胃腸炎の治療

ウイルスを原因とする感染性胃腸炎には特別な治療方法はなく、つらい症状を軽減するための処置（対症療法）が行われます。嘔吐の症状がおさまったら、少しずつ水分を補給し、安静に努め、回復期には消化しやすい食事をとるように心がけましょう。

**学校は出席停止になります。  
登校の際は「登校届け」を提出してください。**